

県外派遣報告書		
審判員名	眞榮喜 工	所属 クラブ連盟
大会名	第71回 国民体育大会関東ブロック大会バスケットボール競技	
期間	平成28年8月20日(土)、21日(日)	
会場	富士吉田市/富士北麓公園体育館	
スケジュール		
期 日	内 容	場 所
8月19日(金)	審判会議・レクチャー	山梨県立吉田高校朝日子ホール
8月20日(土)	1回戦	富士北麓公園体育館
	A級研修会	
8月21日(日)	準決・決勝	富士北麓公園体育館
会議 講義 内容		
<p>関東ブロック長 渡邊 整 氏</p> <p>まず、この大会が各都県の選抜の大会であるとともに、審判員も各都県のトップの審判員であるという自覚を持ち、しっかりと自分の判定をすること。正しく公平・公正に判定することで、「正しく、強いチーム」が勝ち上がり、関東ブロックの代表となってほしい。また、審判は選手を育てるという面もあり、オリンピックプレイヤーの育成の役割も担っている。</p> <p>審判の判定というのは選手やチームを正しい方向へ導くものである。そのためには規則、技術、戦術、心情、の理解があつてこそ。試合中、コート上の様々な情報をインプットし、それぞれの判定としてアウトプットする。4原則をツールとして駆使し良い角度と視野を確保する。全ては判定のため。</p>		
<p>指名審判員 北島 寛臣 氏</p> <p>北島氏は自身の経験を基に目標設定とプランニングの大切さを講義された。それぞれの目指すステージと、それに対して出来ること、やるべきことを明確にする。何事に対しても覚悟を決めることが必要。覚悟が出来れば必ずと行動に変化が生まれる。毎試合不安があり、毎試合を振り返る。四原則の徹底という小さな積み重ねが一つの判定に対する自信に繋がる。T. O. やクルーとのコミュニケーションによって良い関係作りを心掛け、それによって良い試合運営が出来る。責任と覚悟を持って、当たり前のことの積み重ねを大切に、試合に臨んでいきましょう。</p>		
<p>指名審判員 山崎 人志 氏</p> <p>山崎氏はWJBLサマーキャンプでのスリーパーソンメカニクについての伝達やメカニクの考え方を講義して頂いた。様々な用語が多く出たが、言葉だけが独り歩きすることは避けたいので、この場では割愛させて頂く。一つ言えることは、4原則については今までもこれからも変わらないということ。県内のB級以下の審判員の方々にはいろいろな言葉に惑わされて、動かなくならないようにして頂きたい。</p>		
<p>日本協会講師 関口 知之 氏</p> <p>「目指す審判像、上手い審判とは？」ということで、昨シーズンのNBLファイナル第3戦のクリップを用いて講義された。突発的なことに対する反応・判断の早さと的確さ。というのが特に求められ、その中でも「順序」を適切に示すことがより信頼を得られるようになる。</p> <p>Pre-game-conferenceを大切に、様々なことに対する約束事を確認しておく。そうすることで試合中に起こる様々なことに対して、迅速にそれぞれの役割を果たすことが出来るよう準備が出来る。</p>		
<p>日本協会講師 山田 巧 氏</p> <p>A級審判員としての準備と心構えについて講義された。</p> <p>A級審判員の義務→S級を目指す。県内後進の育成。バスケットボールの発展を担う。</p> <p>S級と試合を担当する際に、笛を合わせようとか、様子をみようとした時点で負け。自分の判定、自分の感性を表現できなくなる。いつ、何処で、誰と、何の試合を担当しても主審のつもりで、常に自分を表現出来る強さも必要となる。その為に「判定力」「分析力」「精神力」「表現力・スタイル」「環境」がなければならない。</p> <p>「判定力」 ①Blocking or Charging ②Post play ③Pick & Role ④Hsndchecking ⑤Remaining 2 minuetes※</p> <p>「分析力」 ①tactics ②ability ③Play style ④Clock & Score management ⑤※</p> <p>「精神力(精神状態)」 ①Coach ②Player ③Audience ④Crew ⑤※</p> <p>「表現力・スタイル」 髪型、体型、服装、立ち方、走り方、話し方、プレゼンテーションetc…すべて見られている。</p> <p>「環境」 職場環境や家庭環境を整え、情熱を持って審判活動に励む。そうすることで日々の仕事や生活環境にとってもプラスとなってくる。何方かだけでは良くない。両方しっかりとやってこそ応援、信頼される。</p>		

実技				
担当試合	期 日	平成28年8月20日	成年女子	1回戦
	対戦カード	神奈川 VS 千葉		副審
	相手審判	主審 佐田 幸一氏 (山梨)		
ミーティング内容		主任 坂田 愛氏(千葉)		
<p>ポストアップ、スクリーン、カッティング等、コート上様々な場所で様々なことが起こる難しい試合だった。その中で、どのプレイに対して、どのタイミングで笛を入れるべきか。本当に被害者側の目的が妨げられたのか。放っておくと今後影響を及ぼすものなのかを考慮し、取捨選択する。吹き急ぐことなく、けれども思い切りよく取り上げる。自分の芯を持っているので、それを崩さず、どこで表現するかが課題。笛の鳴らし方や表現力で説明責任を果たし、信頼感を得られるようになると良い。</p>				
担当試合	期 日	平成28年8月21日	少年男子	準決勝
	対戦カード	東京 VS 千葉		U1
	相手審判	R:武井 晋平氏(栃木) U2:手塚 清孝氏(山梨)		
ミーティング内容		主任 山崎 人志氏(指名)		
<p>3人の判定基準の差を縮めていけると良かった。U2と一緒に巻き込んでいけるようにするのもゲームコントロールの一つになる。一試合通して一貫して悪い手の使い方に線を引いているのは良かった。その中で、このレベルの選手ならもう少し出来るところを引き伸ばしてあげられるような判定をしたい。白黒つけるという最低限のことは出来てきている。より選手を伸ばし、試合をエキサイティングに出来るように笛の内容を吟味する必要がある。メカニックに関して、センター・オフィシャルの際の位置取りとアングルの確保に工夫を。</p>				
全体の感想				
<p>研修会を含めて3日間の大会を通して感じたことは、B級よりA級、A級よりS級と、上級ほど動いて見に行き、確認して判定していると感じた。それはスーパーソンでもスリーパーソンでも同じであった。スリーパーソン・メカニックからの新たな用語が流れてくる中、表面的な言葉尻だけを受け取らず、その用語の本質や意図は何かをもっと考えなければならない。メカニックとして習慣や約束事に変化が出てくるのも、全てはより良い判定と円滑な運営の為であることを理解して、身につけていきたい。自身の反省、課題点としては日頃指摘されているアドヴァンテージ・ディスアドヴァンテージの適用である。吹いて収めようとする傾向がある為、よりバスケットボールの理解を深め、今後につなげる。</p> <p>この度、山梨県協会の方には細部にわたるまで御配慮頂き本当に御世話になりました。また、今大会へ派遣して下さった埼玉県協会、日頃活動を共にしている県内審判員の皆様へ、この場をお借りして御礼申し上げます。今回の経験を少しでも地元に戻し、切磋琢磨し、精進して参りますので、今後も御指導の程、宜しくお願い致します。</p>				